

NPO 法人 練馬すすしろ会

(旧練馬家族会)

特定非営利活動法人 練馬精神保健福祉会 (旧練馬精神障害者家族会)

2021年12月・2022年1月号

発行元：NPO 法人練馬すすしろ会事務局 〒176-0002 東京都練馬区桜台1丁目6-3 吉村ビル 303

URL: <http://www.nerima-kazokukai.net/> Tel&Fax: 03-3994-3382 E-Mail: nfo@nerima-kazokukai.net

当会では、精神障害者が共に普通に暮らしていける地域社会の実現を目指しています。家族の思いを分かちあう交流会、および勉強会、一般の方々の理解と協力を得るための活動、障害者がより質の高い生活を送るための支援などをおこなっています。

—皆さまのご参加をお待ちしています—

- 家族交流会・他の家族の方々とお話ししてみませんか。
 - ・ 日時：第4日曜日 (2020年9月から) 13:30~16:30 ※12月26日(日)の望年会は場所が変わります。
 - ・ 場所：区民・産業プラザ(ココネリ)3階 研修室5 (部屋は変更することがあります) 練馬駅北口1分
 - ・ 初めてのの方は事前にご連絡ください。
- 電話相談：精神障がい者相談員による電話相談を行っています。連絡先は8ページをご覧ください。

- ・ 練馬すすしろ会のホームページに是非お越しください。なお、URLは <http://www.nerima-kazokukai.net> です。
- ・ 会員投稿に関しては、法令、制度や固有名詞等以外の「障害」表記は原則として「障がい」または「障碍」とします。

—NPO 法人練馬すすしろ会 講演会—

「青年期から成人期における発達障害の課題」

日時：2021年10月31日(日) 14:00~16:00

場所：練馬区民・産業会館(ココネリ)3階 研修室5

講師：白梅学園大学子ども学部発達臨床学科 准教授 廣澤満之氏

最初に「障害」の「害」という用語は練馬精神保健福祉会では「碍」を使用することとされておりますが、今回は先生のレジュメにならい「害」を使用いたしますこととお断りさせていただきます。

10月31日、日曜日にココネリ研修室において白梅学園大学准教授の廣澤満之先生の講演会が開催されました。

廣澤先生には「大泉さくら」(大泉障害者地域生活支援センターさくら)の福祉カレッジスクーデリアの講座を受講後に講演依頼をしたのですが、コロナ禍の影響で1年半以上の月日が流れてしまいました。スクーデリアの講座では「青年期から成人期における発達障害の課題」という講座内容で「発達障害」という近年よく耳にするけどどういう障害なのか、ということからお話しいただき、大変丁寧でわかりやすかった

ので、ぜひもう一度お話ししたいとお願いして今回の開催にいたりしました。

そもそも「発達障害」という言葉が世の中に出てきたのは1990年ごろからとのことです。それまでのカテゴライズされた身体障害・知的障害というくりに当てはまらないケースが近年数多く出たことからだそうです。

この「発達障害」という概念ですが、世界標準とは少し違う日本独自のカテゴリーだとのことです。大きく分けて「発達障害」の中には3種類あります。

- 自閉症スペクトラム障害
 - ・ コミュニケーションの障害
 - ・ 対人関係や社会性の障害
 - ・ パターン化した行動やこだわり興味や関心のかたより
 - ・ 言葉の発達の遅れを伴う場合とないケース

○注意欠陥多動性障害 ADHD

- ・不注意で集中できない
- ・多動多弁でじっとしてられない
- ・考えるより身体が先に動く衝動的な行動パターン

○学習障害 LD

- ・「読む」「聞く」「計算する」などの能力が全体的な知的発達に比べて極端に苦手

上記のほかにもチック症や吃音症も「発達障害」に含まれるとのこと。

そして日本では2005年（平成17年4月1日）に発達障害者支援法が施行され「精神障害」枠に含まれております。

長年、福祉の谷間となっていた発達障害者の定義と社会福祉法制における位置づけを確立し、発達障害者の早期発見の福祉的援助に道を開くことを目的としています。

発達障害の定義として自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるもの（2条1項）とされています。

廣澤先生がお勤めの大学にも一定の割合で「発達障害」の特性がある、また「発達障害」の可能性があるとされる方たちが入学されてくるそうです。

就学も幼児から義務教育まではわりと密な連携があるが、中学から高校、高校から大学と高等教育にいくほど関係性が薄くなり途切れそうになることがあるそうです。

高校等からは入学者の学力情報はあっても発達障害があるという情報はなく、本人が自己理解ができていれば入学時に申告していただき早急に学生支援ができるとのこと。

教育現場では個別支援計画を作成して実施・評価をして入学者が円滑に学習を進め学生生活を送れるようサポートされるそうです。実際に就学支援を受けている学生のうち、精神疾患を持つ学生が27.4%、発達障害を持つ学生が21.7%との日本学生支援機構の報告書グラフを見て合わせて50%近くあることに大変驚きました。

しかし潜在的な発達障害があり病識がない場合ですと、そうした学生支援がなされないままでスタートすることになり、どこかの時期でコミュニケーションの問題や授業についていけないなどの問題が出てきて、それがきっかけに不登校や引き

こもりの原因となることがあるそうです。こうした「不登校」「引きこもり」「中退」の連鎖を少しでも減らすべく教育現場では学生生活支援、コミュニケーションスキル支援、卒後のキャリア支援を行っているそうです。

廣澤先生は当事者には「自己理解」と「ヘルプスキル」ができるように幼少のころから支援していくことが大事で、これが基底にあることがその方の教育ニーズを満たし関係者や現場の連携による適切な支援を効果的に受けられる、と話されています。

また、病識のない当事者には周囲の理解が必要で環境を調整していくことで障害度が低くなっていくとお話しされています。

「自己理解」は自分の得手不得手をはじめ、性格、考え方、特徴など、「障害」としての受容、自分がどういうヒトなのか、ナニをしたいのかを考えてみることです。

「ヘルプスキル」は自分はこういうことで困っている、このようにしたい、など現時点でのその人の必要としていることをコトバにして助けてくれる人（支援者）に伝えることが自己の表現の場と機会となるそうです。

この「自己理解」と「ヘルプスキル」を習得することにより、周りの環境を変える、理解者を増やす、そのことが自分自身の生きづらさを少しでも解消していくことにつながるということです。

ICF（国際生活機能分類）の障害モデル（障害をどうとらえるかという視点となります）の説明でも障害の状態は環境によって決定されるので、当事者や子どもを変えようとするのではなく親や周囲を変えるほうが合理的だとお話されています。

「合理的配慮という考え方」の中では「平等」と「公平」は違うこと、そして同じ目標を達成しようとするだけでも一人ひとりその支援量は違うということです。この「合理的配慮」を周囲から得るためには「自己理解」が必要であり、その知識情報を得るためのツールと他者に聞く力また調べ方、手続きの仕方などの体験を通して知識・情報・スキルが積みあがるとのことです。

「スペクトラムという考え方」では便宜的に診断基準のために引かれた線引きはあるが、障害かどうかという明確な線はなく様々な症状があいまいな境界で連続している状況であること、そのあいまいな境界線は文化・時代によって変化するものであること、しかしながら障害の特性が強いかからといってもそれが当事者にとって大変なことではなく、むしろ

る「二次障害」が問題であるとのことです。

障害によって直接的に引き起こされる症状が「一次障害」であり、一次障害と環境との相互作用によって引き起こされる症状が「二次障害」になるそうです。

これからはこの「スペクトラム」という障害による症状があいまいな境界で連続しているという考え方が症状のとらえ方の主流になると話されていました。

成人期までに求められることとして以下のことがあげられています。

○二次障害の防止

- ・二次障害につながる家庭、学校での体験を防ぐ

○自己理解

- ・自分の特性（得意、不得意）、障害の理解、自尊感情

○安心な環境

- ・信頼できる他者、安心できる場所

○コミュニケーション

- ・SOSを出せる力、相談スキル

○生活能力

- ・生活リズム、基本生活スキル、体調管理（医療との連携）、趣味

どの項目も大切ですが上記の中でも「自己理解」と「SOSを出せること、助けてと言えること」（ヘルプスキル）を身につけられることが障壁を低くしていくポイントになるとのことです。

今回の廣澤先生のお話を再度拝聴し、改めて発達障害を持つ家族の親として振り返らせていただきました。当時知らなかったとはいえ、もう少し手だてがあったのではないかと思います。しかし過去のことは取り戻せませんので、少しでも日々学びわかろうとする気持ちを忘れずにこれからも寄り添い見守りたいと考えております。
(吉井)

きらら・社協・年金トータルサポートコスモ・NPO法人練馬すずしろ会 共催

「障害年金の基礎知識

～不安解消！具体的なQ&Aを中心に～

日時：2022年1月23日（日）14：00～16：00

場所：豊玉障害者地域生活支援センター きらら交流室

講師：社会保険労務士 石渡 攻氏

社会保険労務士 久保田 詩織氏

《2021 みんなねっと東京大会 全体会についての報告》

10月7日～8日に「2021年みんなねっと全国大会」は、無事終了することが出来ました。

東京都連（東京つくし会：会長 眞壁博美）が主催したコロナ禍での「オンライン併用方式」で開催された。大会参加者は700名を越え、その内オンライン参加者は400名でした。

初日の10月7日（木）全体会が、調布市文化会館たづくり（くすのきホール）でオンライン開催され、会場参加は東京都連のみの参加となりました。

全体会プログラムのうち、東洋大学名誉教授白石弘巳氏の基調講演および都立松沢病院名誉院長 齋藤正彦氏の特別講演の骨子を紹介します。なお、今回、オープニング・アトラクションとして「みんなねっと東京大会記念歌」発表（多摩草むらの会）披露されました。

1. 基調講演

「当事者・家族が生きいきと地域で暮らしていくために～医療・福祉の連携～」

講師：白石弘巳氏

（なでしこメンタルクリニック院長、東洋大学名誉教授、日本精神保健福祉学会副会長）

我が国の精神科医療の現状：

平成29年の精神科医療機関を受診する人は419.3万人（内入院患者数：30.2万人、外来患者数389.1万人）。15年前の平成14年比で1.7倍に達している。その内、統合失調症は微減の5万人＝20.3万人→15.4万人、気分障害は大幅増。入院患者の減少はやや小さいが認知症の患者を含むため。また、高齢者の割合＝55歳以上で八割を占めています。

課題として①精神科病床が多い②私立病院が多い③少ない人員配置（いわゆる精神科特例）④専門化の遅れ⑤地域ケア体制の遅れ⑥家族に負担を強いる体制他を指摘。

国の、精神保健医療福祉の改革については、平成16年（2004年）9月に、「精神保健医療福祉の改革ビジョン」（以下「改革ビジョン」という。）がとりまとめられた。改革ビジョンにおいて掲げられた「入院医療中心から地域生活中心へ」とい

う基本理念に基づき、これまで、障害者自立支援法の制定や、2013年の保護者制度廃止医療保護入院の改正という重大な変更のあと、2017年「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」（いわゆる「にも包括」）が打ち出された。

「にも包括」施策の要点は、退院支援は市町村が窓口となることと、実行管理上「第6期障害者福祉計画の策定」とSDGsの目標に入れることが重要となる。

次に、みんなねっとの全国調査による「精神科医療の七つの提言」を挙げられて統合失調症の理解するポイントを述べられた。

2. 特別講演

「首都東京の精神医療を考える

～都立松沢病院の取組～

講師：都立松沢病院名誉院長 齋藤正彦氏

一. 客観的症状と主観的体験：患者は客観的な症状把握が困難であり、治療者及び家族は患者の主観的体験の洞察ができない。判らないのはお互い様である。

二. 病識とは？ 治療者と家族にとって都合の良い病識ではダメ。

三. EBM（根拠に基づく医療）は患者の利益になるかどうかは教えてくれない。イギリスのNBM（語りに基づく医療）は患者の意思を尊重する。また、精神医学は限りなく灰色のグラデーションの世界で、白黒を簡単に決められない。また、役所が言う「自己決定権」はあり得ない。

四. 患者に強いる「非自発的治療」は、基本的人権を犠牲にする。

五. 厚労省の数字で、精神障碍患者の入院者が過去一5年間で4万人減ったのは、地域医療が上手く行っていると言うのはマチガイ。

六. 松沢病院が掲げたスローガン四つ＝松沢病院は資源的に恵まれている。①民間医療機関からの依頼を断らない②患者に選ばれる病院になる＝権利擁護は任せてもらう③働きやすい職場＝患者は1.5倍になったので、業務改善が必須。④地域を支え・支えられる病院

七. 行動制限最小化プロジェクト＝隔離最小（24時間拘束は最小限）、拘束最小、病棟内行動制限、持ち物最小制限（刃物、ロープ、タバコ他以外）、病棟ローカルルール（ストッキングを穿かせない他）

八. 患者さんの声を聞く＝診察室、ナースステーションから出て話す。拘束したら拘束した人の罵声を聞く。アンケート自由記載欄を良く読む。

九. 拘束率は18.9%（2012年）から2.4%（2019年）に激減。緊急入院患者は、66%から2%へ。しかも、翌日自ら経口服薬を申し出る患者が8%から34%へ。

十. 在院日数の減：120.5日（2008年）から67.4日（2018年）。3年以上の入院患者は200人レベルから80人台へ。一方、1ヶ月以内の再入院者は増えていた（いわゆる回転ドア入院）一方、任意入院の方々は2倍以上増えている。

十一. まとめ＝患者に選ばれる病院をつくることによって、松沢病院及び民間病院の意識が変わる。最も大事なことは、入院治療がトラウマにならない（次はもっと早く松沢病院に行こう）これによって、東京都の精神医療の水準が上がるし、統合失調症の障碍予後が改善する。

十二. 東京都の業務改善、地域連携施策は進んでいない。採算性重視の独立法人化は間違いということが、コロナ対応で明白になった。

十三. コロナ対応：患者・職員をコロナから守る。感染した精神障碍者は受け入れる。難しいのは、感染の可能性のある患者を受け入れること。救急入院、合併症のある患者。その結果は、2020年度入院患者238人→2021年10月395人。職員の感染：10余人、院内感染なし。精神科病院のクラスター発生で、良い病院とそうでない病院の患者及び家族の違いがはっきりでた。医療水準の低い病院は、発見が遅く、家族支援がない。

一四. 医療保護入院に関する法改正はうまくいってない。家族支援が受けられない患者が取り残されている。即ち、家族がいない患者、ケアする気のない家族の同意で非自発的入院・治療を強いられた患者が出てくる。

一五. 顧客行動調査＝松沢病院のイメージを変えようプロジェクト＝（現状）松沢は日本で最も認知された精神科病院だが官僚的である。→松沢病院に紹介しよう。行ってみよう。サービスの向上で、患者が集まり、人材が集まるようになった。→更なるサービスの向上が期待できる。

（松沢）

きらら風便り

豊玉障害者地域生活支援センター きらら
所長 菊池貴代子氏

～基幹相談支援センターとしての役割②～

練馬すずしろ会のみなさま、こんにちは。

日頃より地域生活支援センター、練馬区社会福祉協議会の活動にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

前号では、現在きららで担っている4つの「基幹相談支援センターの役割」を紹介しました。

本号では、そのうちの2つ、

- ①総合的・専門的な相談支援の実施
- ②地域の相談支援体制の強化のための取組について、詳しくお知らせします。

①総合的・専門的な相談支援の実施では、地域の福祉事業所や関係者との連携や相談の対応、福祉サービス利用者や障害者等の生活で、多岐に亘る調整や解決が難しい状況を包括している事例への対応を行っています。例えば、民間事業所が抱えている困難性がある支援や障害者相談員等に寄せられた相談について一緒に考え検討するとともに、地域の民間事業所や障害者に向けての研修に協力し連携しています。

②の地域の相談支援体制の強化のための取組では、地域の民間事業所との連携強化に加え、医療・行政・司法・就労・こども・高齢・女性・社会福祉法人や団体等と協働した会議の運営・参加やネットワークにおいて支援の検討を行っています。また、福祉サービスを利用する人に対して「サービス等利用計画」を作成し支援する「特定相談支援事業」（練馬区では11/1現在40事業所）では、基幹相談支援センターが相談

支援事業所等と定期的に研修や事例検討、情報交換・共有を行い、業務に従事する相談支援専門員同士が学び合っています。相談支援専門員の資格取得とスキルを高める研修の場の役割も担っています。

ういんぐ便り

石神井障害者地域生活支援センター ういんぐ
所長 益子憲明氏

練馬すずしろ会のみなさま、こんにちは。日頃より地域生活支援センターおよび練馬区社会福祉協議会の活動に多大ご理解ご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ういんぐでもイベント等の縮小・中止や利用人数や利用時間の制限もあり利用される人も減っていたところもありましたが、緊急事態宣言が解除され利用を再開される人も増え始めコロナ前の日常を少しずつ取り戻してきているところです。

今年度、利用者の皆さんが作ってくださった折り紙や切り絵などを使って石神井保健相談所の壁面をリニューアルしました。季節にちなんだ花や昆虫、草木や雪だるまなど四季を感じてもらえるようにと飾り付けをしています。足を止めて笑顔のをぞかせる親子などもいらっしやり、ホッとできる場所になっています。利用者の皆さんも多くの方に笑顔と元気を届けられたことを喜ばれている様子を見て、心温まるこのような場所が少しでも増えていけると良いのかなあと考えています。お近くにお立ち寄り際には、ぜひ見に来ていただけたら幸いです。

またういんぐでは、今年度も地域への障害理解につながる機会として、11/26に大泉病院の精神科医赤沼先生を講師にお招きし、「こころの病」

医療法人社団翠会

当院は予約制となっております。
ご相談の際はまずお電話にてご相談ください。

TEL:03-3997-3070

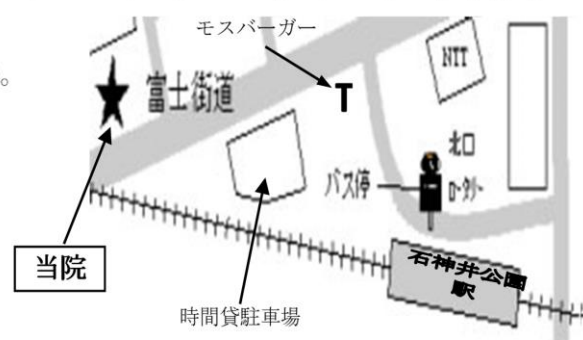
日曜・祝日休診

〒177-0041 東京都練馬区石神井 4-3-16-101

●家族相談・精神保健相談

お気軽にご相談下さい

こころのクリニック石神井



の基礎知識～病気からの新しい1歩～をテーマに「精神保健福祉講座」を開催します。今回は、新たな取り組みとしてよりお住いの近くでご参加いただけるよう Zoom によるサテライト会場を増やしての開催を予定しています。

障害のある人もない人も、支える人と支えを受ける人に分かれることなくともに支えあい、さまざまな人々が活躍できる地域共生社会に向けてこれからも各事業に取り組んで参りたいと思っておりますので、今後ともご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

みんなの声

会員の皆さま、

このところコロナ感染者数も急減していますが、どのような日々をお過ごしでしょうか。

このコーナーは皆さまの広場です。楽しいこと、健康法やストレス解消法あるいは日頃思っていることなど、ぜひ会報にお寄せください。お待ちしております。



このイラストは会員家族の方の作品です。

Mさんは『めんど草くさくサクサしたっていいじゃないか』という絵本を描いてアマゾンで販売しています。人の役に立つという使命を語るほうれん草とそれぞれの幸せで生きるめんど草の友だち（あほ草、じゃま草、けち草、てれ草など）とのやり取りが面白いです。

寄り添う心と ころ

精神科急性期治療、高齢化社会に対応した認知症治療病棟
専門医師とスタッフたちが愛情込めて適切に対応します



(交通のご案内)

武蔵関駅(西武新宿線)より 徒歩15分 又は関東バス「菟窪駅行き」「三鷹駅行」にて

♡♡ ここは 武蔵野サンクチュアリ ♡♡

慈雲堂前下車徒歩3分

医療法人社団じうんどう 慈雲堂病院

大泉学園駅(西武池袋線)より 西武バス「吉祥寺駅行」にて関町北一丁目下車徒歩10分

院長 田邊 英一

東京都練馬区関町南4-14-53
〒177-0053 TEL. 03(3928)6511

(診療科)

精神科 内科

homepage: <http://www.jiundo.or.jp/>

(併設など) 訪問看護ステーション 精神科大規模デイ・ケア/デイナイトケア グループホームまいとりい

《傘寿のバースデイ》

10月で80才になった私の誕生日と一緒に暮らしている息子が長男を誘ってお祝いをしてくれました。お気に入りの中華のお店を予約してくれ、生春巻き、カシューナッツ炒め、餃子、五目焼きソバ、卵スープを注文しました。

お店の人に息子が「今日は母の誕生日なんです」と伝えるのを聞いていた人から、プレゼントとして小さな可愛いぬいぐるみをいただきました。

私と同年代のその女の人一人で食事をしていましたが、私との会話では「一人の方が気が楽で寂しくないわ」と言っていました。が黙って帰って行きました。きっと幸せそうな私を見てうらやましかったのだと思います。

デザートのアーモンド入り杏仁豆腐もおいしくて嬉しいひと時でした。

息子は障害者として働きながら亡くなった次男の分まで私の事を気にかけてくれます。

今私はとても幸せですが、この先私がいなくなった時の事がとても心配です。サポートをして下さる人をできるだけ多くしたいと周りの人をお願いしています。行政の方の助けも充実するようになってほしいです。
(工藤)



面会を終えて帰りぬ我れの背に
冷たき扉の北一病棟

(渡邊)

平成の時代に看護師として医院勤務のとき
『五十路のあゆみ』より

長男のアルバム裏表紙に一首記されてありました。
二十三才の時に詠んだものです。

ただいまの夫の声聞きねむかけの
乳房はなして吾子の這いゆく

一首と二首の間に重ねられた年月には、子育ての喜びも入院に至る病の辛さと困難も、そして長く続いている生きづらさと危うさがあります。
ご長男は60才になりました。お二人の年月に私たちの月日が重なります。
私も子どもが楽しいことを見つけて生きていてくれたらと願っています。(編集部 依田)

～心の扉を開く医療がここにはあります～

都市型病院を
目指す



医療法人財団厚生協会

大泉病院

《診療科目》 精神科・神経科・心療内科

〒178-0061 東京都練馬区大泉学園町 6-9-1

Tel・03-3924-2111 (代表) Fax・03-3924-3389

★診療について★

受付 午前9:00～11:30 午後1:00～3:00

診療日 月曜日～土曜日 (水曜日・土曜日は午前のみ)

休診 水曜日・土曜日午後、日曜日、祝祭日、年末年始

受付時間内は、経験豊富な専門医が常時2～3名担当しております

NPO 法人練馬すずしろ会 入会のお誘い

- ・隔月 1 回発行する会報をお届けします。
“みんなねっと”をご希望の方は事務所までご連絡ください。
- ・毎月行なわれる交流会、勉強会及び、福祉施設見学会（年 2 回）、講演会（年 3～4 回）にご参加いただけます。
- ・その他、随時おこなわれる行事には家族揃ってのご参加をお待ちしています。

- ・会 員：年会費 9,000 円（個人、但しお支払い方法は一括払い、4,500 円の 2 回分割払いでも結構です）
 - ・賛助会員：年会費 3000 円（団体可／一口）
- <振込先>
三井住友銀行 中村橋支店
普通預金 口座番号 1588974
口座名義：特定非営利活動法人練馬精神保健福祉会

NPO 法人練馬すずしろ会 12・1 月スケジュール

■12 月 11 日（土）14：00～16：00

2021 年度第 9 回練馬すずしろ会運営&理事会
場所：区民・産業プラザ（ココネリ）3 階 研修室 5

■12 月 26 日（日）11：00～15：00

練馬すずしろ会望年会&交流会
望年会 11：00～13：00 交流会 13：00～15：00
場所：光が丘区民センター 2 階 調理室

■1 月 8 日（土）14：00～16：00

2021 年度第 10 回練馬すずしろ会運営&理事会
場所：区民・産業プラザ（ココネリ）3 階 研修室 5

■1 月 23 日（日）13：30～16：00

2021 年度第 8 回練馬すずしろ会交流会
場所：区民・産業プラザ（ココネリ）3 階 研修室 5
※年始年末事務所お休みします。

12 月 27 日～1 月 10 日

区内各保健相談所「家族の集い」12・1 月スケジュール

※初めての方は、事前に、各保健相談所の家族教室担当保健師か、地域の担当保健師にご連絡ください。

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| ☆大泉保健相談所 大泉学園町 5-8-8 電話 03-3921-0217 | ☆北保健相談所 北町 8-2-11 電話 03-3931-1347 |
| 12 月 7 日（火）1 月休み 10:00~12:00 | 12 月 21 日（火）1 月 18 日（火）14:00~16:00 |
| ☆関保健相談所 関町東 1-27-4 電話 03-3929-5381 | ☆光が丘保健相談所 光が丘 2-9-6 電話 03-5997-7722 |
| 12 月 10 日（金）1 月 14 日（金）13:30~15:30 | 12 月 21 日（火）1 月 25 日（火）14:00~16:00 |
| ☆石神井保健相談所 石神井町 7-3-28 電話 03-3996-0634 | ☆豊玉保健相談所 豊玉北 5-15-19 電話 03-3992-1188 |
| 12 月 20 日（月）1 月 24 日（月）14:00~16:00 | 12 月休み 1 月 31 日（月）14:00~16:00 |

精神障がい者相談員が電話で相談を伺います。携帯電話は受信専用になっていることをご了承下さい。

- ・練馬家族会事務所への電話相談： 電話番号 03-3994-3382 火・水・金 13：30～16：30
- ・携帯電話への相談： 松沢 勝 070-4097-2801 月～金 10：00～17：00
轡田 英夫 090-9809-8591 同上 渡邊ミツ子 070-3965-8791 同上
工藤 邦子 070-3991-4924 同上 吉井 美恵 070-4076-9647 同上

—望年会のお知らせ—

日時：2021 年 12 月 26 日（日）
望年会 11：00～13：00 その後、
交流会 13：00～15：00
場所：光が丘区民センター 2 階調理室
参加費：1000 円（会員家族は無料）
プレゼント交換をします。100 円
くらいの品をご持参ください。

事務所は
12 月 27 日（月）
～1 月 10 日
（月・祝）まで
お休みします。

映画「夜明け前～呉秀三と無名の精神障害者の 100 年」と講演会

日本の精神医療の草分けと言われる呉秀三のドキュメンタリーから現代の精神医療と福祉の問題点を考えます。

2022 年 2 月下旬以降、上映予定。詳細は次号会報にてお知らせします。

大泉学園北口徒歩 3 分
医療法人社団地精会

大泉 金杉クリニック

神経科・精神科・心療内科

<http://www.kanasugi-clinic.com>
TEL 03-5905-5511（予約制）

練馬すずしろ会
会報 2021 年 12 月・2022 年 11 月号
2003 年 11 月創刊 通巻第 211・212 号

発行日：2021 年 11 月 20 日
発行所：特定非営利活動法人
練馬精神保健福祉会 事務局
〒176-0002 東京都練馬区桜台 1 丁目
6-3 吉村ビル 303

発行人：NPO 法人練馬精神保健福祉会
編集：NPO 法人練馬精神保健福祉会
編集委員会

